

## 宇和海島嶼(九島, 嘉島, 戸島, 日振島)における哺乳類の分布

山内 健生<sup>1\*</sup>・宮本 大右<sup>2</sup>・古川 真理<sup>2</sup>

<sup>1</sup>〒939-0363 富山県射水市中太閤山17-1 富山県衛生研究所

<sup>2</sup>〒798-0027 宇和島市柿原349 ネイチャー企画

### Distribution of mammals on the offshore islands of Uwajima City, Shikoku, Japan

Takeo Yamauchi<sup>1\*</sup>, Taisuke Miyamoto<sup>2</sup> and Mari Furukawa<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Toyama Institute of Health, 17-1 Nakataikoyama, Imizu, Toyama, 939-0363 Japan

<sup>2</sup>Nature Kikaku Wildlife Research Office,  
349 Kakahara, Uwajima, Ehime, 798-0027 Japan

**Abstract.** We investigated the mammalian fauna of the four offshore islands (Hiburijima, Tojima, Kashima, and Kushima) of Uwajima City, Shikoku, Japan. As a result, six species: dsinezumi shrew *Crocidura dsinezumi*, raccoon dog *Nyctereutes procyonoides*, weasel *Mustela* sp., masked palm civet *Paguma larvata*, wild boar *Sus scrofa*, and Japanese hare *Lepus brachyurus*, were recorded. Weasels in Hiburijima are presumably descended from the population introduced from the mainland Ehime Prefecture around 1960. On the other hand, weasels introduced to Kashima and Tojima were probably extinct. Wild boars in Hiburijima, Tojima, and Kushima are presumably an invading population from the mainland. Agricultural damage by wild boar was found in the islands.

**Key words:** *Sus scrofa*, *Mustela*, *Crocidura dsinezumi*, Ehime Prefecture, fauna, range expansion, human introduction.

#### (要約)

宇和海の4つの有人島: 九島, 嘉島, 戸島, 日振島 (いずれも愛媛県宇和島市) において聞き取り調査とフィールドサイン調査を実施し, 野生哺乳類の分布を調べた。その結果, 九島ではタヌキ, イタチ類 (イタチあるいはチョウセンイタチ), ハクビシン, イノシシ, ニホンノウサギ, 戸島ではニホンジネズミとイノシシ, 日振島ではイタチ類とイノシシの分布情報を得た。嘉島では野生哺乳類の分布情報が得られなかった。日振島に低密度で分布するイタチ類は, 1960年頃にドブネズミの天敵として愛媛県本土から導入された個体群の子孫であると考えられた。同じ頃に嘉島と戸島へ導入されたイタチ類は絶滅した可能性が高い。九島, 戸島, 日振島のイノシシは本土から近年新たに侵入した個体群であると考えられた。これらの島嶼ではイノシシによる農作物の被害が発生していた。

#### はじめに

愛媛県の宇和海上には多くの島嶼が存在し

ており (Fig. 1), これらの島嶼には亜熱帯系の植物や昆虫が分布する (橋越, 2004)。宇和海の島嶼における哺乳類の分布については, 4つの

\* 連絡先 (Corresponding author): takeo.yamauchi@pref.toyama.lg.jp

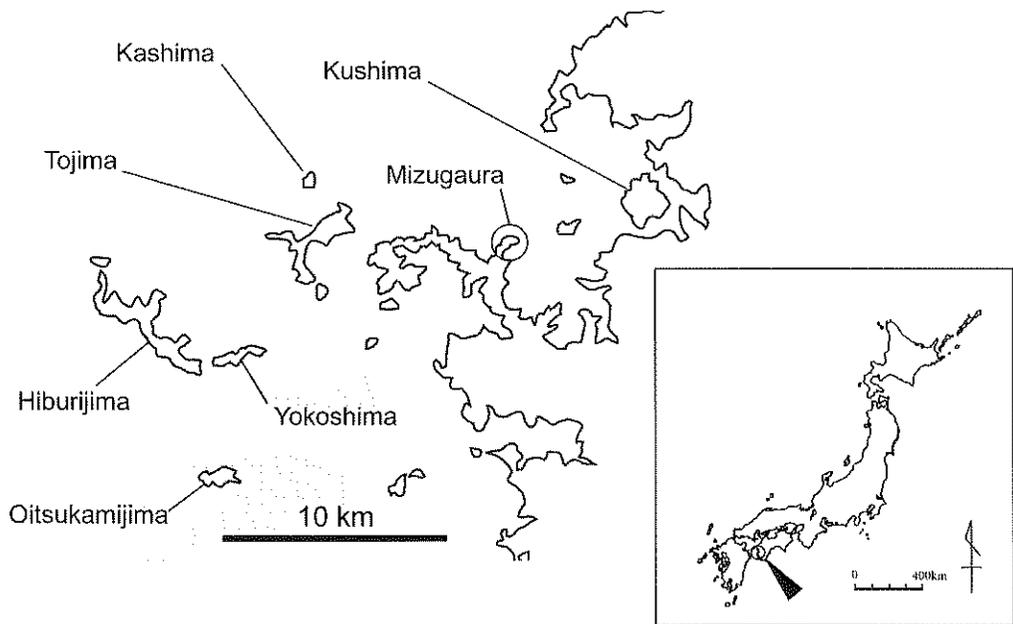


Fig. 1. Map of the offshore islands of Uwajima City, Shikoku, Japan.

有人島と1つの無人島に関して以下のような古い記録がみられるものの、その後の調査はなされておらず、現在の分布状況は不明である。

九島は面積3.35 km<sup>2</sup>、最高標高320 mの有人島で、宇和島港の入り口に位置し、本土からは最短で320 mしか離れていない。島内には柑橘類の果樹園が多く、ウバメガシ *Quercus phillyraeoides* の二次林が部分的に残っている(橋越, 2004)。1912年頃に作成された九島村誌の未刊行原稿には「古老ノ言ニヨレバ往昔ハ猪鹿等ノ獸類棲息シタリト傳フレドモ現時ハ開墾シテ耕地殆ンド山頂ニ達シ此等ノ獸類ノ棲息スベキ餘地ナシ只兎鼯等ノ少許存在スルノミ」という記述がある。この記述から、1912年頃には九島にニホンノウサギ *Lepus brachyurus* とイタチ *Mustela itatsi* が分布しており、ニホンジカ *Cervus nippon* とイノシシ *Sus scrofa* は分布していなかったことがわかる。周辺地域と同様、九島においても1954年の夏頃からドブネズミ *Rattus norvegicus* の異常大発生が確認され(田中, 1997)、1957年8月23日には九島など

がイタチの禁猟区となり(近代史文庫宇和島研究会, 1989)、1958年には九島などへ39個体のイタチ類(イタチであったのかチョウセンイタチ *Mustela sibirica* であったのか、あるいは両種が混じていたのかは不明。以下、特記なき限り同様)が放獣された(森川, 1975)。森川ら(1963)によると、1961年12月下旬に九島の山畑でハジキワナによる小型哺乳類の採集が実施されたが、少数のドブネズミが捕獲されたのみで他種は捕獲されなかった。その他、九島では1971年と1975年にカワウソ *Lutra lutra* が記録された(青木, 1997; 八木, 1973)。

戸島は面積2.81 km<sup>2</sup>、最高標高191 mの有人島で本土の半島部から最短で1.1 kmの距離に位置する。戸島では、クロマツ *Pinus thunbergii*、ウバメガシ、スダジイ *Castanopsis sieboldii* が海岸林を構成する(橋越, 2004)。嘉島は面積0.54 km<sup>2</sup>、最高標高122 mの有人島で戸島と最短で1 kmの距離に位置する。嘉島にはウバメガシの二次林がみられる(橋越, 2004)。戸島と嘉島から構成されていた戸島村の村誌(1912年頃作

成、未刊行)には「獸類ノ棲息セルモノトシテハ唯屋内ト野外トヲ問ハズ鼠ノ棲息スルモノヲイタメニ農家ノ作物ヲ荒シ家具ヲ害スル甚シ故ニ是ヲ駆除スルタメ殆ト毎戸ニ猫ヲ飼フ此ノ二種類以外ノ獸類ナシ時ニ瀬ノ海ニ浮ヒ陸ニ走ルヲ見ルノミ」という記述があることから、当時、両島には中型以上で真に陸生の野生哺乳類が分布していなかったものと考えられる。なお、戸島では、近隣地域に先駆けて1949年の夏からドブネズミの異常大発生が確認された(平岩・澄川, 1951; 森川, 1975; 清水, 1961; 田中, 1997)。戸島には野生の食肉目哺乳類が分布していなかったため、1957年にはドブネズミの天敵として愛媛県北宇和郡(現在の宇和島市北部)の狩猟家の協力のもとにトラバサミで捕獲された97個体のイタチ類を戸島へ放った(清水, 1961)。また、1958年10月には、戸島へ90個体、嘉島へ30個体のイタチ類を放った(平岩・内田, 1960; 白石, 1982)。さらに、1965年には嘉島へ56個体のイタチ類を放った(森川, 1975)。嘉島へもイタチ類が導入されたということは、当時、嘉島でもドブネズミが発生していたものと考えられる。ドブネズミの異常大発生は1955年頃がピークであったが、1963年には収束した(田中, 1997)。その他、嘉島では1960年にカワウソが記録され(八木, 1973)、戸島では1963年、1964年、1967年、1970年にカワウソが記録された(青木, 1997; 八木, 1973)。

日振島は面積4.01 km<sup>2</sup>、最高標高197 mの有人島で、暖流の影響を強く受けている。島内には暖帯南部あるいは亜熱帯性の植物が分布しており、タブノキ *Machilus thunbergii* 群落やスダジイ群落などの照葉樹林に被われている(橋越, 2004)。1912年頃に作成された日振嶋村誌の未刊行原稿には「島地ニ最モ多ク棲息セル獸類ハ鼠ノ類ニシテ、家屋ト山野ト田畑トヲ問ハス到ル処鼠算的ニ蕃殖跋扈シテ、家具・農作物・水産製造物等ニ害ヲ及スコト夥シク、古来島地ノ厄介動物トシテ嫌忌セラレツアルモ(中略)。其他兎・鹿・猪ノ如キハ一モ棲息セス。」という記述があることから、1912年頃に

はこの島に、ニホンジカ、イノシシ、ニホンノウサギは分布していなかったようである。なお、日振島では1949年の夏からドブネズミの異常大発生が確認された(森川, 1975; 清水, 1961; 田中, 1997)。日振島には野生の食肉目哺乳類が分布していなかったため、ドブネズミの天敵としてイタチ類および本土(愛媛県南宇和郡内海村)で毛皮用に飼育されていたアメリカ産のヨーロッパケナガイタチ(フィッチ) *Mustela putorius furo* が島内へ放された。ドブネズミの異常大発生は1955年頃がピークであったが、1963年には収束した(田中, 1997)。日振島では1964年にカワウソが記録され(八木, 1973)、日振島と横島の間の海上でも1962年にカワウソが記録された(青木, 1997)。

御五神島は面積1.32 km<sup>2</sup>、最高標高195 mの無人島(1975年までは有人島)である。1912年頃に作成された日振嶋村誌の未刊行原稿には「御五神島ニ八十数年前マテ多少ノ猪棲息セシモ、今ハ之モ尽キテ跡ナクナリタリ。」という記述がある。1962年にはドブネズミの天敵として御五神島などへ40個体のヨーロッパケナガイタチが放たれた(森川, 1975)。その他、御五神島では1967年にカワウソが記録された(青木, 1997)。

ネズミ対策のために宇和島市の島嶼および本土の一部へ導入されたイタチ類は愛媛県内の各地から集められたものであったが、イタチとチョウセンイタチの区別も、性別も明らかではなかった(森川, 1975)。ただし、1962年に主として宇和海島嶼へ導入された950個体については、大部分がチョウセンイタチであったとのことである(森川, 1975)。

イタチ類はネズミ駆除のために国内の多くの島嶼へ導入され、大きな効果をあげてきた(白石, 1982)。しかし、その一方で、イタチの捕食圧は鳥類や爬虫類の減少をまねき(長谷川, 1986; 高木・樋口, 1992)、さらには島嶼の生態系にも大きな変化をもたらすことが指摘されている(長谷川, 2002)。また、増えすぎたイタチ類が人家へ侵入して住民生活へ直接的な害を

及ぼした例も知られている(白石, 1982). 宇和海島嶼にも上記のようにイタチ類が導入されたが, その後の追跡調査はされておらず, 現在の状況も不明である. 現在も宇和海島嶼には導入個体由来するイタチ類が分布しているのか, そしてイタチ類が宇和海島嶼の生態系へ何らかの影響を与えているのかといった保全生態学的な立場からも, これらの島嶼における哺乳類調査の必要性は高いといえる.

そこで, 宇和海島嶼のうち4つの有人島: 九島, 嘉島, 戸島, 日振島において, 哺乳類の分布調査を行なった. その結果, いくつかの新知見を得たので報告する.

### 調査方法

九島では2006年8月11日, 12月9日, 12月24日, 2007年2月8日, 5月3日に, 戸島では2006年8月12日, 11月6日, 2007年2月10日, 4月30日に, 嘉島では2006年8月10日, 11月4日, 2007年2月9日, 5月1日に, 日振島では2006年7月17日, 11月5日, 2007年2月11日, 4月29日に, 聞き取り調査とフィールドサイン調査を実施し, 哺乳類の分布を調べた. 聞き取り調査では, それぞれの島の港付近において40-90歳の島民から直接話を聞いた. フィールドサイン調査では, 島内の山野を歩き, 哺乳類の痕跡を発見して記録するとともに, 可能な限りデジタルカメラで撮影した.

本論文中の哺乳類の和名・学名は阿部ら(2005)にしたがった.

### 結 果

島民への聞き取り調査では以下の情報が得られた.

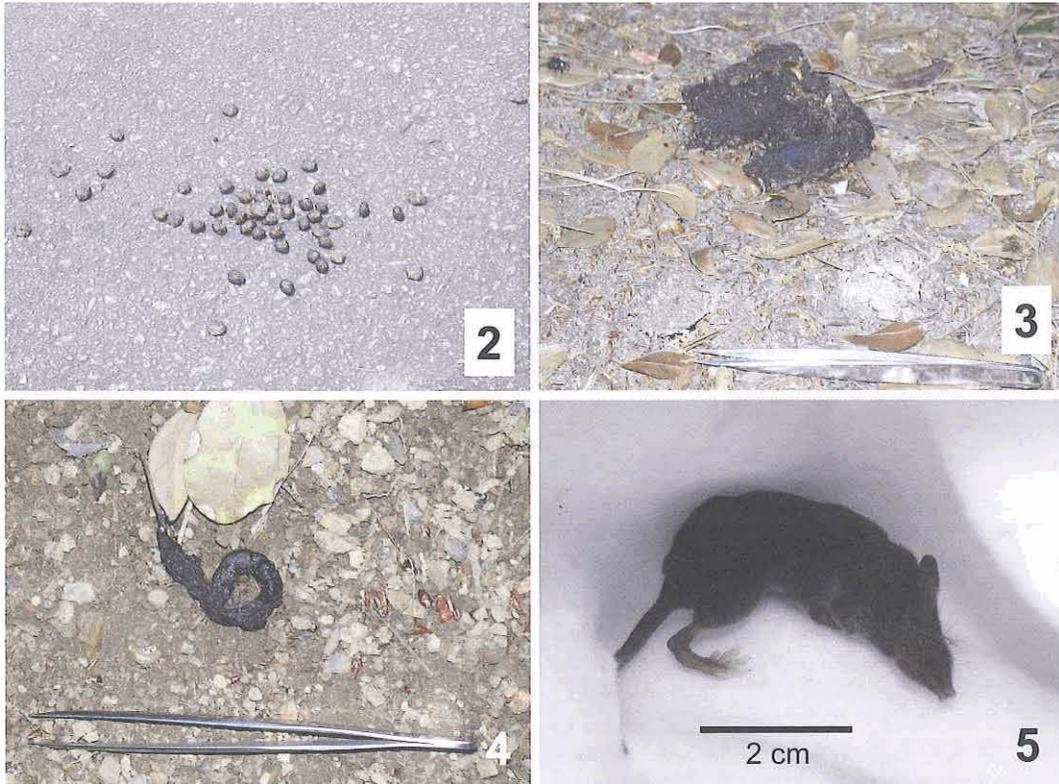
九島では, 近年になってイノシシが増加し, 年に1回程度, 宇和島市の猟友会が駆除に訪れる. その他, 九島には, 中型以上の野生哺乳類として, タヌキ, イタチ類, ハクビシン *Paguma larvata*, ニホンノウサギが分布する.

戸島では, ここ2-3年の間で, これまで分布していなかったイノシシが定着した. イノシシは戸島へ泳いで渡ってきたらしく, 本土(津島町)から横島へ向かって泳いでいる途中のイノシシが船上から目撃された. 戸島には, 野良ネコはいるが, タヌキ, イタチ類などの中型野生哺乳類は分布せず, ウシ *Bos taurus* も飼育されていない.

嘉島では, イノシシ, タヌキ, イタチ類などといった中型以上の野生哺乳類は分布しておらず, ネズミ類も少ない.

日振島にイノシシが出現しはじめたのは約10年前で, それ以前はイノシシが分布していなかった. しかし, 現在では島全域に多数のイノシシが分布し, イノシシによる農作物への被害も発生している. イノシシは本土(津島町)から泳いで渡ってきているらしく, 日振島へ向かって泳いでいる途中のイノシシが船上から目撃されており, 少なくとも1個体は撲殺された. また, 戸島から日振島へ向かって泳いでいる途中のイノシシも船上から目撃されている. 2007年2月初旬にイノシシの溺死体が日振島の能登港付近に打ちあがった. 年に2回程度, 宇和島市の猟友会が日振島でイノシシ猟を実施しているが, あまり採れないとのことである. 日振島のイタチ類はネズミ騒動の時に導入されたもので, それ以前は分布していなかった. イタチ類は約10年前には島内で多く目撃されたが, 現在ではとても少ない. しかし, 2006年に1個体が目撃されており, 現在も少数が島内に分布することは確実である. タヌキやキツネは日振島に分布せず, ドブネズミは今ではほとんど見られない. 昭和50年代に野良ネコが島内に大発生し, 宇和島市から駆除のための人員が訪れたが, 関西地方の動物愛護団体が阻止のために来島し, 騒動になった. 現在も多数の野良ネコが島内に分布している. 古老が子供の頃には日振島にカワウソが分布していたので, 本土からカワウソ猟のために人が訪れていた.

フィールドサイン調査では, 哺乳類の糞が多数発見されたが, 種の同定が可能なものは少な



Figs 2-5. 2. Droppings of *Lepus brachyurus* in Kushima. 3. Droppings of *Nyctereutes procyonoides* or *Paguma larvata* in Kushima. 4. A dropping of *Mustela* sp. in Hiburijima. 5. *Crocidura dsinezumi* found in Tojima. Length of forceps: 12.8 cm in 3 and 4. We are unable to show the scale bar in Fig. 2 because we did not photograph the droppings with a measuring scale.

かった。種の同定ができたものは、九島におけるニホンノウサギの糞 (Fig. 2) のみであった。種の同定にはいたっていないが、九島ではタヌキかハクビシンのものと思われる糞 (Fig. 3)、日振島においてイタチ類の糞 (Fig. 4)、およびイノシシのものである可能性の高い糞を多数確認した。

2006年8月12日、戸島の小内浦から郡へ通じる道路付近で偶然に1個体のニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* を発見した。発見地は古くに放棄されて樹木に覆われた段々畑であった。その際、捕獲許可を得ていなかったため捕獲はせず、撮影のみを行なった (Fig. 5)。また、野生哺乳類ではないが、調査を実施したすべての島嶼でイヌ *Canis familiaris* とイエネコ *Felis catus*

を目撃した。

以上の結果、九島、嘉島、戸島、日振島には、合計で6種の野生哺乳類が分布することが明らかとなった (Table 1)。

## 考 察

島嶼の哺乳類相は本土におけるほぼ同じ条件の区域のそれに比べて貧弱であることが知られている (高田ら, 1999など)。宇和海島嶼と本土の水荷浦における陸生哺乳類相 (愛媛県, 1978; 早見, 2005; 環境庁, 1995; 宮本ら, 未発表; 森川, 1961; 八木, 1973) を比較すると (Table 1)、ニホンジネズミを除き島嶼で記録された全種が水荷浦で記録されており、一方で、水荷浦で

Table 1. Land mammals recorded from the offshore islands (Hiburijima, Tojima, Kashima, and Kushima) and the mainland (Mizugaura) of Uwajima City, Shikoku, Japan.

	Offshore islands				Mainland
	Hiburijima	Tojima	Kashima	Kushima	Mizugaura
Insectivora					
<i>Crocidura dsinezumi</i>		◎			
<i>Mogera wogura</i>					◎*
Carnivora					
<i>Vulpes vulpes</i>					●
<i>Nyctereutes procyonoides</i>				△	●
<i>Martes melampus</i>					◎*
<i>Mustela sp.</i>	○△●	●	●	△●	●
<i>Lutra lutra</i>	●	●	●	●	●
<i>Paguma larvata</i>				△	◎*
Artiodactyla					
<i>Sus scrofa</i>	△	△		△	●
Rodentia					
<i>Apodemus speciosus</i>					◎*
<i>Rattus norvegicus</i>	●	●		●	●
Lagomorpha					
<i>Lepus brachyurus</i>				○△●	◎*

◎: photo record; ○: presence of dropping; △: hearing data; ●: literature record.

\*Unpublished record by Taisuke Miyamoto *et al.*

記録されているコウベモグラ *Mogera wogura*, キツネ *Vulpes vulpes*, テン *Martes melampus*, アカネズミ *Apodemus speciosus* は島嶼で記録されていないことがわかる。小型哺乳類については調査精度が低いため議論できないが、中型哺乳類の分布を考慮すると、一般的な島嶼と同様に、宇和海島嶼では本土と比較して哺乳類相が貧弱であるといえる。なお、これまでに愛媛県の島嶼においてニホンジネズミは記録されていないため(山本ら, 2005), 戸島で撮影された個体は愛媛県の島嶼における本種の初記録となる。

近年、対馬や房総半島などでは、導入されたイノシシが分布を拡大し、農作物に深刻な被害をおよぼしている(神崎, 2002)。これらは地続きの地域における分布拡大の例であるが、山本ら(2007)は瀬戸内海の島嶼においてイノシシが海を渡って移動している可能性を指摘した。宇和海では、イノシシが泳いで海を渡ることによって九島、戸島、日振島へ近年分布を広げたことはほぼ明らかである。イノシシが海を泳ぐことについては、奄美諸島での事例が高橋(2001)に

詳しく述べられており、イノシシが遊泳によって分布を拡大することは稀な現象ではないことがわかる。一方、イノシシが高い遊泳能力を有するにもかかわらず嘉島に分布しないという事実は、嘉島の面積がイノシシの個体群を維持するには小さすぎるためかもしれない。

野生哺乳類は感染症媒介動物(ベクター)の宿主にもなりうるため、その分布はベクターの分布に直接的な影響を与える(高田, 1990)。現在、宇和海島嶼において危険性の高い動物由来感染症は確認されていないが、宇和島市本土ではマダニ類がベクターとなる日本紅斑熱(第四類全数把握感染症)の患者が発生している(近藤ら, 2003)。そのため、島嶼においても日本紅斑熱患者発生の可能性はマダニ類の宿主となる哺乳類の分布と大いに関係している。今回調査を実施した島嶼のうち、イノシシが分布する島嶼では、大型哺乳類を主な宿主とするタカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* が多数採集されていることから(山内ら, 未発表)、イノシシの侵入にともなってイノシシ寄生マ

ダニの侵入あるいは密度増加が起こっている可能性が示唆される。つまり、これらの島嶼では哺乳類相の変化にともなってマダニ相が変化しつつあるのかもしれない。したがって、島嶼において野生哺乳類の分布を把握することは感染症のリスクマネージメントの点でも重要な意味をもつといえる。

イタチ類は、かつて日本各地の島嶼へネズミ駆除のために導入され、現在では島嶼の生態系に影響を与える外来生物として問題視されている(長谷川, 2002)。宇和海島嶼でもイタチ類が人為的に導入された歴史を持つが、導入されたイタチ類が島の生態系へどのような影響を及ぼしたのかは本調査で明らかにならなかった。なお、宇和海島嶼に導入されたイタチ類のその後は以下のようにそれぞれの島で異なっている。現在の九島に分布するイタチ類は在来の個体群と導入個体群の両方あるいはどちらか一方の子孫である。九島では、導入以前から在来のイタチが分布した上、同じ食肉目のタヌキとハクビシンも分布するため、この島へ導入されたイタチ類のその後がどのようなものであったのか興味深いところである。戸島と嘉島では導入されたイタチ類が絶滅したと考えられるが、その理由は不明である。日振島のイタチ類は導入された個体群の子孫であると考えられる。導入以前にイタチ類が分布していなかった戸島、嘉島、日振島のうち、導入されたイタチ類の子孫が現在も分布する日振島と絶滅した戸島・嘉島とで、イタチ類の生存に関してどのような差があったのかが明らかとなれば、日本各地のイタチ類による外来種問題を考える上で示唆を与えうる事例となるだろう。このように近隣に位置する島嶼であってもイタチ類の分布状況や起源が異なっていることから、宇和海島嶼はいわゆる「島嶼生物学の実験場」として興味深いフィールドであるといえる。

## 謝 辞

日振嶋村誌、戸島村誌、九島村誌などの未刊

行文献を閲覧させていただいた宇和島市立図書館の職員の方々、および聞き取り調査に協力して下さった九島、嘉島、戸島、日振島の住民の方々にお礼申し上げます。また、文献などについて御教示くださった宇和島東高校の橋越清一氏に深謝する。本研究の一部は厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)の助成を受けた。

## 引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明, 2005. 日本の哺乳類 [改訂版]. 東海大学出版会, 秦野.
- 青木昭男, 1997. 高知県でのニホンカワウソ保護の取り組み. 高知新聞企画出版部(編), ニホンカワウソやーい! 高知のカワウソ読本: 71-97. 高知新聞社, 高知.
- 著者不明, 未刊行(1912年頃作成). 日振嶋村誌.
- 著者不明, 未刊行(1912年頃作成). 九島村誌.
- 著者不明, 未刊行(1912年頃作成). 戸島村誌.
- 愛媛県, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(哺乳類). pp. 1, 9. 環境庁, 東京.
- 橋越清一, 2004. 宇和海島嶼部の生物. 愛媛県高等学校教育研究会理科部会生物部門(編), 愛媛の生物誌: 230-242. 愛媛県高等学校教育研究会理科部会生物部門, 松山.
- 長谷川雅美, 1986. 三宅島へのイタチ放獣 その功罪—放獣後数年にして急激に変化しつつある生物的自然. 採集と飼育, **48**(10): 444-447.
- , 2002. ニホンイタチ. 日本生態学会(編), 外来種ハンドブック: 72. 地人書館, 東京.
- 早見萬之助, 2005. 自然環境(生物). 宇和島市誌編纂委員会(編), 宇和島市誌(復刻版): 195. 宇和島市, 宇和島.
- 平岩馨邦・澄川精吾, 1951. 愛媛縣戸島に於ける鼠禍及び鼠の異常大増殖の対策について. 九州大学農学部学芸雑誌, **13**: 406-414.
- 平岩馨邦・内田照章, 1960. 天敵イタチの導入による鼠禍鎮圧. 森林防疫ニュース, **9**(1): 11-13.
- 環境庁, 1995. 自然環境情報図, 第4回自然環境保全基礎調査—愛媛県一. 環境庁, 東京.

1 本書の内容は、内海文化研究紀要, **16**: 111-147. (1988年)に翻刻されている。

- 神崎伸夫, 2002. イノシシ・イノブタ. 日本生態学会(編), 外来種ハンドブック: 77. 地人書館, 東京.
- 近代史文庫宇和島研究会, 1989. 遊子の歴史 天と地と海のはざまに生きる. 777 pp. 遊子の歴史を記録する会, 宇和島.
- 近藤玲子・大瀬戸光明・山下育孝・豊嶋千俊・井上博雄・千屋誠造・田中良憲・近藤俊文, 2003. 愛媛県内における日本紅斑熱の初発事例. 愛媛県立衛生環境研究所年報, (6): 13-17.
- 森川国康, 1961. 愛媛県のネズミーネズミとのたたかい. 愛媛の自然, 3 (3-4): 20-22.
- , 1975. 愛媛の自然. 186 pp. 愛媛文化双書刊行会, 松山.
- 森川国康・神崎雅広, 1976. 愛媛県における大中型哺乳類の生息現状について. 松山東雲短期大学研究論集, 7: 269-281.
- 森川国康・伊藤猛夫・越智 脩・矢野昭三, 1963. 西南四国の鼠害地域におけるドブネズミとアカネズミの分布関係について. 衛生動物, 14: 128.
- 清水栄盛, 1961. 愛媛の動物. 235 pp. 松菊堂, 松山.
- 白石 哲, 1982. イタチによるネズミ駆除とその後. 採集と飼育, 44 (9): 414-419.
- 高田伸弘, 1990. 病原ダニ類図譜. 222 pp. 金芳堂, 京都.
- 高田靖司・酒井栄一・植松 康・立石 隆, 1999. 伊豆諸島における小哺乳類の分布. 日本生物地理学会会報, 54: 9-19.
- 高木正興・樋口広芳, 1992. 伊豆諸島三宅島におけるアカコッコ *Turdus celaenops* の環境選好とイタチ放獣の影響. *Strix*, 11: 47-57.
- 高橋春成, 2001. 海を泳ぐイノシシ—イカを釣りに行き、イノシシを捕って帰る. 高橋春成(編), イノシシと人間—共に生きる: 221-243. 古今書院, 東京.
- 田中皓正, 1997. 日振島の昭和史. 329 pp. 三重学術出版会, 津.
- 八木繁一, 1973. 伊予のニッポンカワウソが心配. 愛媛の自然, 15 (7): 10-11.
- 山本貴仁・宮本大右・山本栄治・西原博之, 2005. 愛媛県における食虫類の生息記録. 愛媛県総合科学博物館研究報告, (10): 29-33.
- 山本貴仁・小川次郎・宮脇 馨, 2007. 愛媛県越智郡上島町赤穂根島の動物相. 愛媛県総合科学博物館研究報告, (12): 31-37.

(2008年2月29日 受理)

追記: 本稿受理後, 聞き取り調査によって以下の情報が得られた.

御五神島において, 「わくわく体験チャレンジ事業」(愛媛県教育委員会主催)の一環で大学生と子供たちが2007年8月6日からキャンプ生活を行っていたところ, 8月7日の夜に大きなイノシシが出没したため, このキャンプは中止となった. 御五神島では, 1988年から毎年夏に愛媛県教育委員会主催のキャンプが行なわれていたが, イノシシが出没したのは今回が初めてであった.

嘉島にも2007年秋にイノシシが現れ, 集落裏手の山にあるサツマイモ畑などをしばらく荒らしていたが, いつの間にか姿が見えなくなった. また, 同じく2007年に, 嘉島沖を遊泳中のイノシシが嘉島の漁師たちに捕獲された. こうした事例から, 嘉島にもイノシシは上陸するが, 定着はしていないと推定される.